

9月飯舘C班

ふくしまの未来

・垣内田 滉 ・高橋 優斗
・阿部 愛花 ・中村 優那 ・山田 優

目次

- ・ 飯舘村が抱える課題
- ・ 飯舘村は他の過疎地域と何が違う？
- ・ 飯舘村 過疎対策の事例（ハシドラッグ）
- ・ 飯舘村の展望
- ・ 今後について
- ・ 自分たちに何ができるか



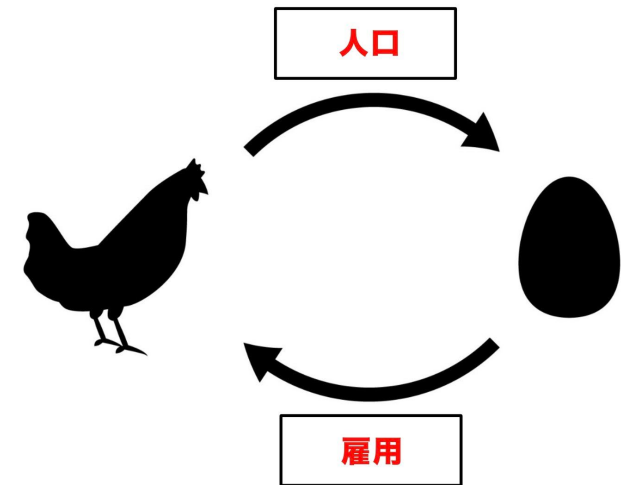
飯舘村が抱える課題

- 人口が少ない
 - 商業施設が少ない
 - 雇用が少ない
-

他の過疎地域と何が違う？

1. 人口が少ない
2. 採算が合わない店舗や病院が廃業
3. 雇用もなくなる
4. さらに人が減る

→鶏が先か、卵が先か というジレンマ



しかし、きっかけに震災があるのは間違いない

ハシドラ



<https://sl.bing.net/bhdpOUZ5ugu>

- 福島県内に16店舗
- 今年5月に飯舘店オープン

ハシドラ

地域の人の需要に応えつつ雇用を創発している！

- 働きたいひとがいる
 - 村産農作物の取り扱い
 - 公設民営型
- 

「総額7億875万円のうち、4億8500万円は国の「自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金」から、残りは村の財源を充てたという。5年間は、商業機能回復促進事業として県の援助も受けながら補助をしていくという。」

引用：飯舘村に初のドラッグストア 避難指示解除の買い物ニーズにこたえる【福島県】：朝日新聞

飯舘村の展望

[研修で受けた印象]

- 行政の支援・介入が不可欠な印象
 - →e.g. まいでい館, 農地・設備の貸与, 集会場や宿泊施設の建設 など
- 介入が住民のニーズに一致しているのかはやや疑問
 - 例えばまいでい館の商品は生活のため、という感じはしない
- 公的施設・道路等はきれいに整備されており、景観もよい
- 除染されているエリアも多く普通に生活していて線量を気にする必要はない
- 一方で、民間の商業施設は不足気味？

→実際どうなのか調べると…

飯舘村の展望

[復興計画より]

- 交流・情報発信のため、
までい館を整備
- 村のシンボルとして、
太陽光発電を整備
- 村営住宅に加えて、
集会所・交流広場を整備
- 農地・農道を整備

(2) 土地の用途の概要（別添の土地利用構想図及び復興整備事業総括図参照）

飯舘村復興のシンボルとして新たに整備する村内復興拠点エリアは、飯舘村の中央部に位置し、福島県の浜通りと中通りを結ぶ県道原町川俣線に面する深谷地区にする。

また、深谷地区に隣接する松塚地区及び谷地向東・谷地向西地区は、農業の担い手を含む村民が将来帰還することを見据え、村の営農再開までのモデルエリアとして、民間事業者を活用した再生可能エネルギー発電事業とその収益の一部を活用した営農再開推進や村農産物の販路拡大のため、次のような土地利用を図る。

深谷地区

- ①交流ゾーンには、情報交流の機能を有する道の駅と、村民と来村者の交流・ふれあいを生み出し、村の歴史や文化を伝承し情報発信する「までい館」を整備する。
- ②再生可能エネルギーゾーンには、再生可能エネルギーを活かした村づくりのシンボルとなる太陽光発電施設を整備する。

③居住・公園ゾーンには、若年層や高齢者等多世代が安心して住むことができる復興村営住宅等の住環境を整備し、併せて、復興拠点エリアが立地する深谷地区のコミュニティの中心となるように多機能集会所と多目的交流広場等を整備するとともに、村の新たな産業として農業再生を牽引する花卉栽培施設を整備する。

松塚地区

- ①営農再開ゾーンでは、早期の営農再開を目指した、農地保全の推進、水田放牧・施設園芸等を行うための整備を行う。
- ②再生可能エネルギーゾーンでは、収益の活用による早期の営農の再開への支援、伝統文化の継承及び雇用対策のため、一部の農地を一定期間活用して民間事業者を活用した太陽光発電施設の整備を行う。

谷地向東・谷地向西地区

- ①営農再開ゾーンでは、同地区内の和牛繁殖農家が、牛の餌として牧草の栽培を進め、までいブランドの復活に向けた取り組みを進める。
- ②再生可能エネルギーゾーンでは、収益の活用による村農産物販路拡大に向けた施策展開のため、一部の農地を一定期間活用して民間事業と連携した太陽光発電施設の整備を行う。

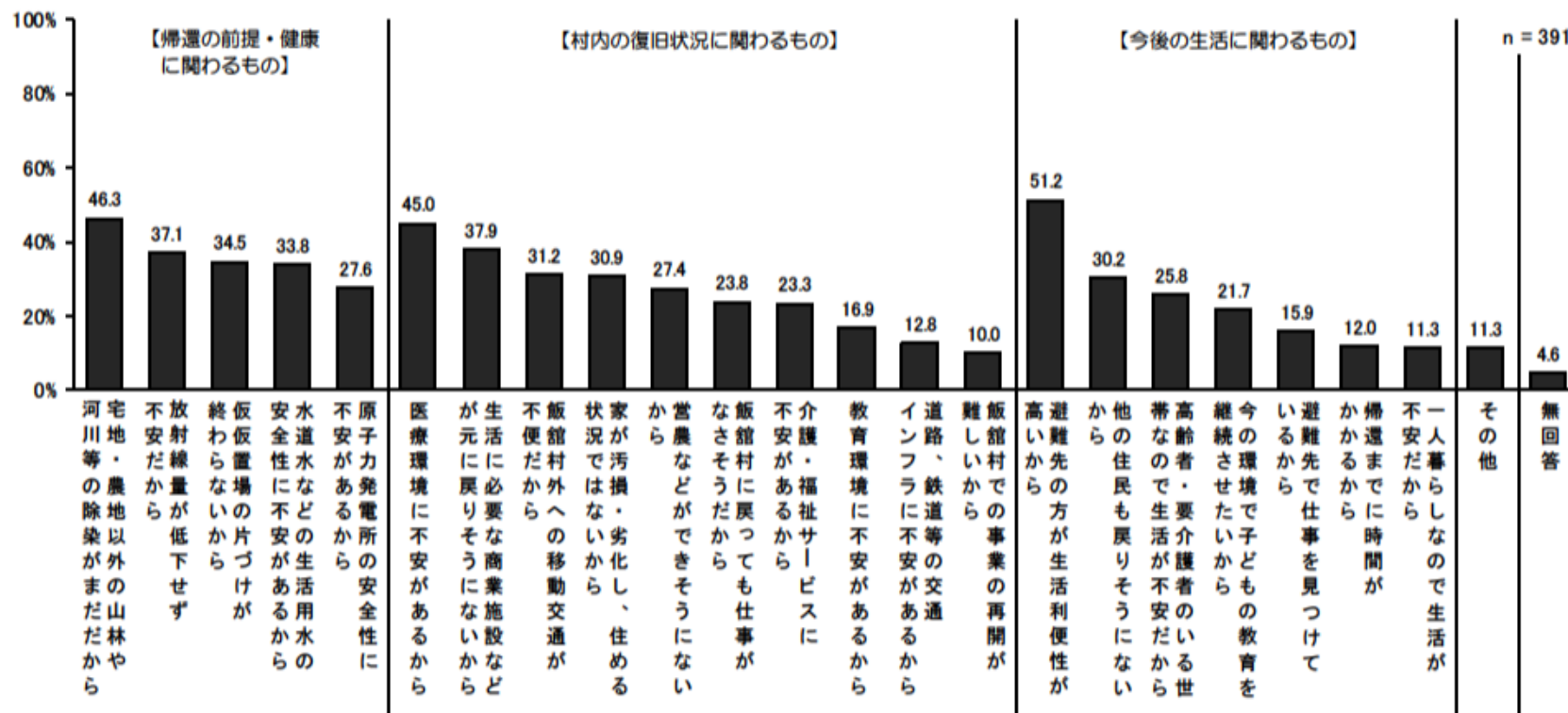
野手神地区

- ①同地区における農産物の運搬及び営農に必要な農道の整備を行う。

復興庁 意向調査 (H28)

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問12-1 戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)



https://www.reconstruction.go.jp/files/user/topics/main-cat1/sub-cat1-4/ikoucyousa/28ikouchousakekka_iitate.pdf

飯舘村の展望

[意向調査より]

- ・ 医療環境・商業施設など生活環境を理由に挙げる人がほぼ半数いる
- ・ 原発への不安、事業再開へのハードルを理由に挙げる人は比較的少ない
- ・ 未除染地域や線量の高さを懸念する声も4割程度存在



汚染のイメージにより『豊かな自然』という魅力を喪失し
生活の不便さだけが目立ってしまったのではないか

飯舘村の展望

[展望：総括]

- ・ 現状の支援は避難者への金銭的支援、農地や施設の貸し出し、住民の集いの場や自治体のシンボルとなる施設の建設、などが主であり、生活利便性の向上にはあまり寄与していない
- ・ 産業の回復を急ぐ一方で生活基盤の修復が後手に回っている
- ・ ニーズとずれた出資を続けると、住民が増えず税収も増えないので財政に負担がかかる一方で危険
- ・ →より住民に密着した支援・介入への転換が必要だと考える

今後について

[ではどうすればいいのか？]

簡単に解決できないが一案として…

- 民間の事業者を誘致・支援する体制に切り替える
- ハシドラックのような事例をもっと増やす
 - →実際我々もハシドラなしには過ごせなかったはず
- 初速を行政の力でつけて、民間に維持してもらう
 - 数が増えれば競争によって価格が下がる上に雇用も生まれる
- 補助金ベースから民間に委ねてより住民の人のために発展していく経済へ

朝日新聞 > 記事

飯館村に初のドラッグストア 避難指示解除の買い物ニーズにこたえる

荒川公治 2025年5月30日 11時00分



✉ f X B! ...
list 0



買い物をする村の人たち=2025年5月29日、飯館村
草野大師堂、荒川公治撮影



福島県飯館村に29日、東京電力福島第一原発事故による避難指示の解除後2軒目となる商業施設が開店し、多くの人たちが詰めかけた。

出店したのは福島市に本社があるハシドラッグ（橋浦希一社長）で、飯館店が同社の16店舗目になる。村外に避難する住民の帰還を増やしたいという村の要望に、「福島のお役に立ちたかった」と橋浦社長が出店に応じた。

村は被災前に農協が運営していた商業施設の跡地を購入して造成。延べ床面積約1300平方メートルの鉄骨平屋建て店舗、店内の棚やパソコンなどもすべて用意した。総額7億875万円のうち、4億8500万円は国の「自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金」から、残りは村の財源を充てたという。5年間は、商業機能回復促進事業として県の援助も受けながら補助をしていくという。初年度は1270万円の予算をつけた。

方メートルの鉄骨平屋建て店舗、店内の棚やパソコンなどもすべて用意した。総額7億875万円のうち、4億8500万円は国の「自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金」から、残りは村の財源を充てたという。5年間は、商業機能回復促進事業として県の援助も受けながら補助をしていくという。初年度は1270万円の予算をつけた。

自分たちに何ができるか

- 研修に参加した身としてできること
 - 実際に線量計を持って歩き回った経験を伝える
 - 実際に原発に入ってみた経験を伝える/希望すれば見学できることを伝える
 - 放射線自体はそんなに問題ではなくなっている面もあると周知する
- 大学生としてできること
 - はまでいずはじめとした活動。活躍の場を探している他の大学生も巻き込む
 - 飯館をフィールドに考えている事業者とつながる
- ひとりの消費者としてできること
 - 来訪する。いいと思ったものを購入する